

経済・金融 フラッシュ

消費者物価(全国 08年8月) ～コア CPI は 2.4% で高止まり

経済調査部門 主任研究員 斎藤 太郎

TEL:03-3512-1836 E-mail: tsaito@nli-research.co.jp

1. コア CPI 上昇率は 2 ヶ月連続の 2.4%

総務省が 9 月 26 日に公表した消費者物価指数によると、8 月の消費者物価（全国、生鮮食品を除く総合、以下コア CPI）は前年比 2.4% となり、上昇率は前月と変わらなかった。事前の市場予想（ロイター集計：2.4%、当社予想は 2.3%）を若干上回る結果であった。

食料（酒類除く）及びエネルギーを除く総合は前年比 0.0%（7 月：同 0.2%）、総合指数は前年比 2.1%（7 月：同 2.3%）であった。

消費者物価指数の推移

(前年同月比、%)

	全 国			東 京 都 区 部		
	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合	総 合	生鮮食品を 除く総合	食料(酒類除く) 及びエネルギーを 除く総合
07年 4月	0.0	▲0.1	▲0.2	0.1	0.0	▲0.2
5月	0.0	▲0.1	▲0.3	0.0	0.0	▲0.2
6月	▲0.2	▲0.1	▲0.4	▲0.2	▲0.1	▲0.3
7月	0.0	▲0.1	▲0.5	▲0.1	▲0.1	▲0.3
8月	▲0.2	▲0.1	▲0.2	▲0.3	0.0	▲0.2
9月	▲0.2	▲0.1	▲0.3	▲0.1	▲0.1	▲0.3
10月	0.3	0.1	▲0.3	0.1	0.0	▲0.3
11月	0.6	0.4	▲0.1	0.3	0.1	▲0.1
12月	0.7	0.8	▲0.1	0.4	0.3	▲0.1
08年 1月	0.7	0.8	▲0.1	0.3	0.4	0.0
2月	1.0	1.0	▲0.1	0.4	0.4	▲0.1
3月	1.2	1.2	0.1	0.6	0.6	0.1
4月	0.8	0.9	▲0.1	0.6	0.7	0.0
5月	1.3	1.5	▲0.1	0.9	0.9	0.1
6月	2.0	1.9	0.1	1.5	1.3	0.3
7月	2.3	2.4	0.2	1.6	1.6	0.3
8月	2.1	2.4	0.0	1.3	1.5	0.2
9月	-	-	-	1.4	1.7	0.5

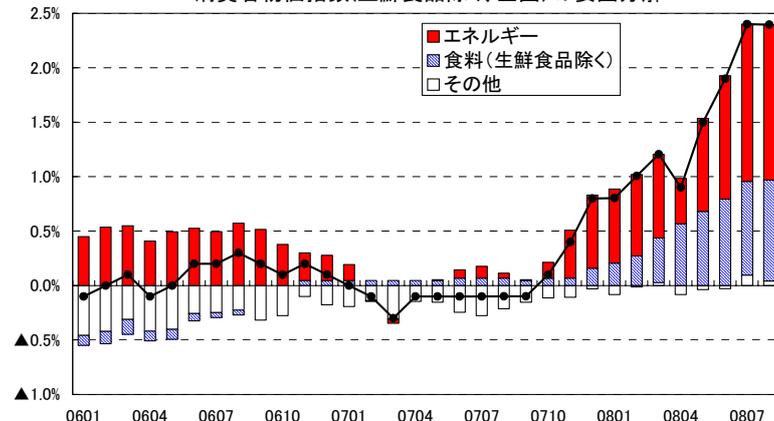
(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

コア CPI の内訳を見ると、ガソリン価格の前年比上昇率が 7 月の 28.7% から 26.4% へと縮小し、コア CPI への寄与度は 7 月の 0.76% から 0.75% へと若干縮小した。

一方、値上げが続く食料品（生鮮食品を除く）は、麺類（前年比 13.3%）、パン類（前年比 16.8%）、調理食品（前年比 4.4%）などが引き続き高い伸びとなったことから、7 月の前年比 3.8% から同 4.1% へと高まり、コア CPI の上昇寄与は 7 月の前年比 0.86% から同 0.93% へと拡大した。

コア CPI のうち、エネルギー価格による寄与が 1.42%、食料品が（生鮮食品を除く）0.93%、それ以外が 0.04% であった。

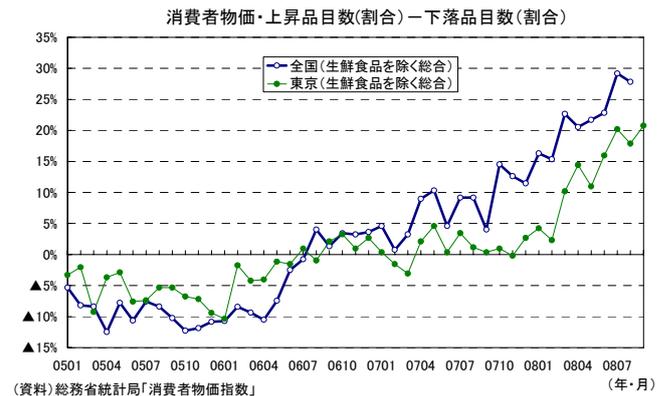
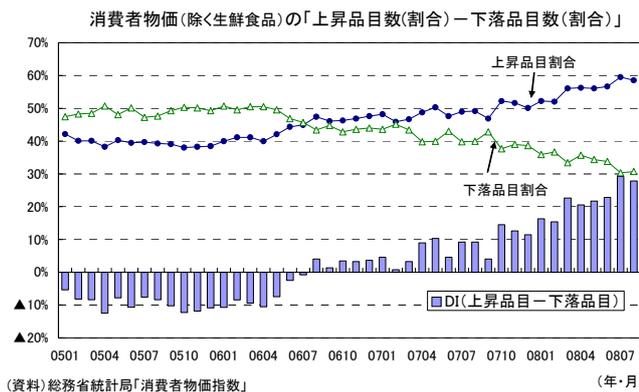
消費者物価指数(生鮮食品除く、全国)の要因分解



(資料)総務省統計局「消費者物価指数」

(年・月)

消費者物価指数の調査対象 585 品目（生鮮食品を除くと 524 品目）を、前年に比べて上昇している品目と下落している品目に分けてみると（中間年見直しで追加された 3 品目はカウントせず）、8 月の上昇品目数は 305 品目（生鮮食品を除くベース）と、7 月の 310 品目からは減少したものの、引き続き 5 割を大きく超えている。下落品目数は 160（7 月は 158）となり、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は 27.8%と 7 月の 29.2%から若干低下した。さらに 9 月の東京都区部の上昇品目数は 8 月の 273 から 9 月には 283 へと増加しており、「上昇品目割合」－「下落品目割合」は 8 月に比べて 3 ポイント程度拡大している。物価上昇の裾野はさらなる広がりを見せている。



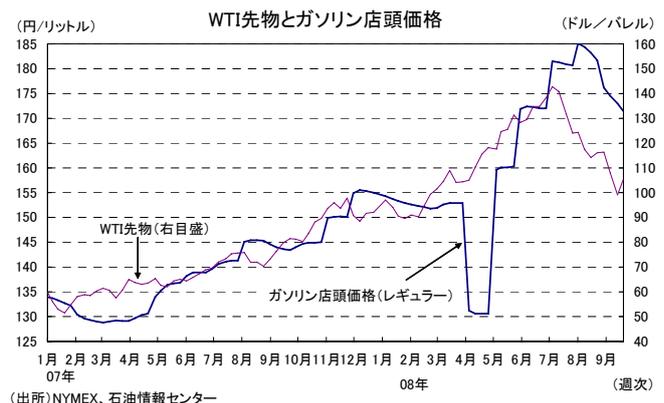
2. コア CPI は 1%台後半で高止まりが見込まれる

9 月の東京都区部のコア CPI は前年比 1.7%となり、上昇率は前月から 0.2 ポイント拡大した。事前の市場予想（ロイター集計：1.5%、当社予想も 1.5%）を上回る結果であった。

食料品（生鮮食品を除く）は前年比 3.7%となり 8 月の同 3.4%から伸びが拡大した。

ガソリンは前年比 21.0%となり、8 月の同 25.8%から伸び率は低下した。7 月中旬に 1 バレル＝140 ドル台後半まで上昇した原油価格（WTI）

は、米国をはじめとした世界経済の減速に伴う需要減退観測の高まりなどから、足もとでは 100 ドル程度となっている。原油価格の下落を受けて、ガソリン店頭価格（石油情報センター調べ）は 7 週連続で下落しており、10 月以降も値下げが続くだろう。ガソリン価格の前年比上年率は 7 月の 28.7%（全国 CPI ベース）がピークで年末にかけては一桁の伸びまで低下することが見込まれる。



しかし、直接的には原材料高の影響を受けていないはずの洋服、教養娯楽品、洗濯代、運道具、雑誌、石けん、フィルム、雑誌など、物価上昇の裾野は着実に広がっている。コア CPI 上昇率は 7 月、8 月の 2.4%が当面のピークとなる可能性が高いが、1%台後半で高止まりが続くだろう。

(お願い) 本誌記載のデータは各種の情報源から入手・加工したものであり、その正確性と安全性を保証するものではありません。また、本誌は情報提供が目的であり、記載の意見や予測は、いかなる契約の締結や解約を勧誘するものではありません。